

# 音楽科学習指導案

- I 題材名 【鑑賞】音楽の特徴から情景を想像しよう  
教材名 「和声と創意の試み」第1集「四季」から「春」第1楽章（ヴィヴァルディ作曲）

## II 大会主題との関わり

【本時で変容した生徒の姿】

音楽を形づくっている要素に関連付けて情景を想像しながら聴いたり、言葉で説明したりすることを通して、音楽の特徴と詩に描かれた情景とのかかわりを感じ取る生徒の姿。

## III 本時の視点

比較聴取や発問の工夫、言葉で伝え合う活動を手立てとして取り入れたことは、音楽の特徴と詩に描かれた情景との関わりを感じ取るうえで有効であったか。

## IV 考 察

### 1 題材観

本題材における学習内容の学習指導要領上の位置付けと、本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素は、以下のとおりである。

B 鑑賞（1）ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。

本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素  
音色、旋律、強弱、形式

本題材では、音色、旋律、強弱、形式などの音楽を形づくっている要素に着目し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、主体的に解釈したり価値を考えたりし、よさや美しさを味わうことをねらいとしている。具体的には、楽曲の各場面や全体を鑑賞することを通して、知覚・感受したことを支えに、自分なりに解釈したり価値を考えたりしたことを言葉で説明し合って音楽のよさや美しさを味わう。

本題材で扱う「春」第1楽章は、詩（ソネット）に基づいて作曲されており、曲が表している情景を自分なりに想像しながら聴いたり、それと関わらせながら音楽を形づくっている要素や構造を捉えたりする学習を行うなどの視点から、中学校音楽科の鑑賞領域の学習に適している。

そこで、本題材の1時間目（本時）では、まず「春」第1楽章のソネットA（春がやってきた）とD（黒雲と稲妻が空を走り、雷鳴は春が来たことを告げる）の部分と比較聴取して曲想の違いを捉える。その上で、Dの部分の情景を想像しながら聴き、その理由を音楽を形づくっている要素の働きに着目して言葉で説明し合う。これらの活動を通して、音楽の特徴と情景を表す曲想との関わりを感じ取ることができるようにする。2時間目では、前時の学習を想起させた後、作曲者や曲の形式について理解する。次に、ソネットを手がかりに「春」第1楽章全体を鑑賞し、各場面の曲想の違いや変化を音楽を形づくっている要素の働きと関連づけて捉える。そして、これまでに理解したことや捉えた音楽の特徴などを根拠に挙げながら、自分なりの曲に対する評価とその根拠を紹介文に書き、友達と説明し合うことを通して、自分にはない感じ方や考え方のよさに気付いたり、新たな思いを広げたりして、曲のよさや美しさを深く味わうことができるようにする。

このような活動を通して、知覚・感受したことを支えに、音楽を自分なりに評価しながら、主体的に音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようになると考え、本題材を設定した。

また、本題材の系統は、以下のとおりである。

学年	題材名・内容	主な音楽を形づくっている要素
第1学年	<b>音楽の特徴から情景を想像しよう</b> 詩の内容と曲想のかかわりを感じ取って聴き、主体的に解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わう。	音色、旋律、強弱、形式
第2学年	<b>曲の構成を理解して曲想を味わおう</b> 曲の構成と曲想とのかかわりを理解して聴き、主体的に解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わう。	音色、リズム、旋律、形式・構成
第3学年	<b>音楽の特徴や背景を理解して、その魅力を味わおう</b> 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取りながら、曲の背景や作曲者の思いを理解して聴き、主体的に解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わう。	音色、速度、旋律、強弱

## 2 生徒の実態（男子15名・女子15名 合計30名）

〈音楽への関心・意欲・態度〉

鑑賞の授業について、「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた生徒の割合が71%となり、やや高い傾向が出たものの、残りの約3割の生徒は、鑑賞の活動が好きではないという結果がアンケート結果から出た。また、「音楽の授業で鑑賞するとき、その音楽から感じ取ったことを言葉や文章で表すことは好きですか」という問いに対し、「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた生徒の割合は、38%という低い結果が出た。このことから、音楽から感じ取ったことを、言葉で表現することに抵抗感を抱いている生徒が多い現状がある。本題材の学習を通して、音楽から何を聴き取り、どのように表現すればよいのかということを確認にし、言葉で表現することに抵抗感を少なくしていきたい。

〈鑑賞の能力〉

「音楽の授業で鑑賞するとき、どんなことに気を付けて聴くとよいですか」との問いに対して、音楽を形づくっている要素に着目して回答した生徒は、30名中9名と少数であり、またその要素の内容についても、リズムや強弱など限られた要素の種類であった。本年度6月に行った「魔王」の鑑賞では、子の旋律の高さの変化と子のおびえる心情の高まりを関連付けて感じ取るなど、詩の内容と曲想との関わりを感じ取って聴けるようになってきている。本題材ではさらに、弦楽器の音色や旋律、強弱、形式などの音楽を形づくっている要素の働きが生み出す音楽のよさや美しさを感じ取ることができるようにしていきたい。

## V 目 標

- 「春」第1楽章の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組む。
- 「春」第1楽章の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

## VI 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
①「春」第1楽章の音楽を形づくっている音色、旋律、強弱、形式と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。  <b>【観察・ワークシート】</b>	①「春」第1楽章の音楽を形づくっている音色、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。 ②知覚・感受しながら、「春」第1楽章の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。  <b>【観察・ワークシート】</b>

## Ⅶ 指導計画（全2時間 本時は1時間目）

過程	教材	時	学習活動	指導上の留意点
つかむ	「春」 第一楽章	1 本時	○Dの部分を聴いて、音楽から情景を想像し、想像した理由を音楽を形づくっている要素の働きに着目して言葉で説明し合う。	○AとDの部分を比較聴取することで、音楽を形づくっている要素の働きを知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や曲想の違いを感じ取らせる。 ○発問を工夫することで、音楽を聴いて想像した情景と音楽を形づくっている要素の働きを関連付けて考えさせる。 ○説明活動を取り入れることで、音楽の特徴と詩が描いている情景との関わりを感じ取らせる。
			評価規準 (評価方法)	ア① エ① 【観察】【ワークシート】
追求する	「春」 第一楽章	2	○「春」第1楽章全体を聴いて、曲のよさや美しさを紹介文としてまとめ、友達と説明し合う。	○初級・中級・上級紹介文を示すことで、曲のよさや美しさに対する自分なりの評価について曲想と音楽の構造との関わりなどを根拠として挙げながら紹介文を書かせる。 ○友達と紹介文を説明し合うことで、自分にはない感じ方や考え方のよさに気付かせたり、新たな思いを広げさせたりして、楽曲のよさや美しさを深く味わうことができるようにする。
まとめる			評価規準 (評価方法)	エ② 【ワークシート（紹介文）】

## Ⅷ 指導方針

（本題材を通して）

- 何をどのように学習するのか、見通しをもてるようにするために、学習に対する興味を高めながら、めあてを提示する。
- 鑑賞する時間を十分に確保できるようにするために、内容を焦点化したワークシート、発問や指示の精選、生徒が円滑に活動することができる授業展開に留意する。
- 何を学んだのか自覚し、次の学習につなげられるようにするために、めあてに沿った振り返りの場面を設ける。

（つかむ段階では）

- 初発の感想を言語化できるようにするために、音楽を聴くことによって内面に生まれるイメージや感情を表す形容詞などの「イメージ言葉」を掲示しておく。
- 「旋律」や「強弱」などの音楽を形づくっている要素の働きを理解し、鑑賞する際に着目できるようにするために、既習事項を想起させたり、簡単なメロディーのピアノ演奏を比較聴取したりする場面を設ける。
- 音色、旋律、強弱の働きが生み出す雰囲気や曲想の違いを感じ取れるようにするために、「春」第1楽章のAとDの部分を比較しながら聴取するように促す。

（追求する段階では）

- 情景と音楽を形づくっている要素の働きを関連付けて考えられるようにするために、生徒が想像したDの部分の情景について「なぜそのような情景を想像したのか」という発問をする。
- 音楽の特徴を捉えたり、情景を想像したりすることができるようにするために、音楽を聴き返す場面を設ける。
- Dの部分を聴いた際に、要素の働きに着目しながら聴いていけるようにするために、要素を具体的に示し、「Aの部分と比べてどうだったか」という発問をする。

（まとめる段階では）

- 曲のよさや美しさに対する自分なりの評価について、曲想と音楽の構造との関わりを根拠として挙げながら紹介文に書けるようにするために、初級・中級・上級紹介文を示す。
- 紹介文を書けない生徒に対しては、作曲者や演奏楽器について書いたり、自分の好きな部分について、音楽の特徴や感じ取ったことを簡単な文章でまとめたりするように促す。
- 自分にはない友達の感じ方や考え方のよさに気付いたり、新たな思いを広げ楽曲のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにするために、友達と紹介文を説明し合う場面を設ける。

## Ⅸ 本時の学習

- 1 ねらい 音楽の特徴と詩に描かれた情景とのかかわりを、旋律や強弱などの音楽の要素の働きを基に感じ取ることができる。
- 2 準備 教師：CD 掲示物  
生徒：教科書 ワークシート

3 展 開

学習活動と生徒の意識	時間	指導上の留意点	観点■評価規準（方法）
<p>1 曲を聴き、イメージを膨らませる。</p> <p>(予想される生徒の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明るい感じがするな。</li> <li>・ 弾んだ感じがするな。</li> <li>・ ウキウキする感じがするな</li> </ul>	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aの部分を聴き、感じ取った雰囲気を言葉で表させる。</li> <li>・ 「イメージ言葉」を使うことで、感じ取った雰囲気を言語化できるようにする。</li> <li>・ ①ヴァイオリンなどの弦楽器が活躍する演奏形態であること②詩（ソネット）に基づいて作曲されたことをおさえる。</li> <li>・ 各場面の詩を確認しながら、曲全体を聴かせる。</li> <li>・ Dの部分をふせて示し、興味や疑問を抱かせた上で、本時のめあてをつかませる。</li> </ul>	
2 本時のめあてをつかむ。			
Dの部分が表す情景を、旋律や強弱を手掛かりに探ろう！			
3 Aの部分を聴き、音楽を形づくっている要素の働きを捉える。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のゴールを示した掲示物を示すことで、見通しをもって活動に取り組ませる。</li> <li>・ 既習事項を想起させたり、簡単なメロディーのピアノ演奏を比較聴取させたりすることで、「旋律」や「強弱」等の要素の働きを理解し、それらに着目して鑑賞させていく。</li> <li>・ Aの部分の要素の働きを言語にできるようにするために、ワークシートの記述欄を選択式にする。</li> <li>・ Aの部分について、板書に整理して示すことで、要素の働きと曲想を関連付けて考えさせる。</li> </ul>	
<p>4 Dの部分を聴き、情景を想像し、音楽の特徴から想像した理由を考える。</p> <p>(予想される生徒の反応)</p> <p>(想像した情景)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天気が急変し嵐が来た情景 (想像した理由)</li> <li>・ 旋律が低くなって、強弱が強くなったから。</li> <li>・ リズムが細かく動いていて、激しい感じを出している</li> </ul>	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Dの部分を繰り返し聴きながら、音楽の特徴を捉えさせたり、情景を想像させたりする。</li> <li>・ 想像した理由については、「なぜそのような情景を想像したのか」と発問することで、要素の働きと曲想を関連付けて考えさせるようにする。</li> <li>・ Aの部分とDの部分を比較聴取することで、旋律や強</li> </ul>	<p style="text-align: center;">音楽への関心・意欲・態度</p> <p>アー① 「春」第1楽章の音楽を形づくっている音色、旋律、強弱、形式と曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 (観察)(ワークシートI)</p>

<p>るから。</p> <p>5 想像した情景とその理由をペアや全体で説明し合い共有する。</p> <p>(予想される生徒の反応) 強弱が強くなって、低い音が響いているから、天気が急変して嵐がきた情景を思い浮かべたよ。</p>		<p>弱の働きが生み出す雰囲気や曲想の違いを感じ取らせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>想像した理由を要素の働きと関連付けて説明することで、音楽の特徴と情景とのかかわりを感じ取らせるようにする。</li> <li>生徒が発表した意見を板書にまとめることで、様々な感じ方や考え方を共有できるようにする。</li> </ul>	<p>鑑賞の能力</p> <p>エー① 「春」第1楽章の音楽を形づくっている音色、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ受している。 (ワークシートI)</p>
<p>6 本時のまとめをし、学びを振り返る。</p>	<p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Dの部分の内容を確認後、詩に描かれた情景を想像しながら鑑賞するように助言する。</li> <li>本時の学びを振り返り、ワークシートに記入させていく。</li> </ul>	<p>(表れてほしい生徒の意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の特徴から情景を思い浮かべられたよ。</li> <li>想像した情景が、友達と違っておもしろかったな。</li> <li>強弱や旋律が変わることで、曲の雰囲気が変わるんだな。</li> <li>ヴィヴァルディは、詩を基に作曲したなんてすごいな。</li> <li>音楽で情景を表現することができるなんて、おもしろい。</li> <li>他の部分も、じっくり聴いてみたいな。</li> </ul>